科目名			担当教員	
発達障害者の理解と支援			黄　淵熙	
科目コード	単位数	スクーリング単位	履修方法	配当年次
DD3161 DD3168	2	1	SR（講義）	2年以上
生成 AI 利用レベル		レポート　：　C	試験（スクーリング含む）　：　C	

※2017 年度以降に履修登録をし、2019 年３月まで単位未修得の方は、2019 年度よりレポート課題が２課題に変更されています。単位未修得で論述式レポートに合格している方は、１単位めの客観式レポート課題に解答してください。

※上記にともない、2018 年度までの単位修得者は科目コード「DD3168」に変更されました。

※「発達障害者の心理」（EG4733）の履修登録者は、科目内容が重複しているため本科目を履修登録できません。

※この科目の会場スクーリングは隔年開講予定です。2026 年度は開講しません（次回開講は 2027 年度）。

※オンデマンド・スクーリングは 2026 年度も開講予定です。

科目の概要

■科目の内容

この科目では、発達障害のある人の認知的特徴および心理的問題を理解し、それに対する対応について学習します。

【スクーリングで学ぶ内容】スクーリングでは、発達障害の定義および学習障害（LD）・注意欠陥／多動性障害（ADHD）・自閉スペクトラム症（ASD）の特徴に関して疑似体験等を通して体験的に理解します。また、障害別の対応方法についてグループ討論などを通して学習します。

【教科書・レポート学習で学ぶ内容】教科書・レポート学習では、発達障害の分類および発達障害のある人が学校や社会で直面する問題に関して理解し、適切な対応法に関して学習していきます。

■到達目標

１）発達障害の種類とその特徴について説明することができる。
２）発達障害の行動特性の根底にある認知特性について説明できる。
３）発達障害のある児童・生徒の心理的特徴について述べることができる。
４）発達障害のある児童・生徒に起こりうる２次障害について説明し、それを防ぐための方法について論じることができる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「人と社会の理解力」「開発・創造力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価 40%＋スクーリング評価 60%

■教科書・参考図書

【教科書】

篠山大明「あらためてきちんと知りたい発達障害」慶応義塾大学出版会、2023 年

（最近の教科書変更時期）2026 年 4 月

（スクーリング時の教科書）プリントを配付しそれに基づいて進めていきます。スクーリングにあたって、上記教科書は使用しません。

【参考図書】

１）杉野　学・梅田真理・柳瀬洋美編著『発達障害の理解と指導』大学図書出版、2018 年

２）河村　暁著『教室の中のワーキングメモリ』明治図書、2021 年

３）田中　哲・藤原里美監修『自閉症スペクトラムのある子を理解して育てる本』Gakken、2016 年

４）田中　康雄（監修）『発達障害の子どもの心と行動がわかる本』西東社、2014 年

スクーリング

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	発達障害とは	発達障害の定義と種類
2	発達障害のある児童の心理・行動特性①	学習障害のある人の心理・行動特性
3	発達障害のある児童の心理・行動特性②	ADHD のある人の心理・行動特性
4	発達障害のある児童の心理・行動特性③	自閉スペクトラム症のある人の心理・行動特性
5	発達障害に対する支援①	学習困難に対する支援
6	発達障害に対する支援②	ワーキングメモリーの困難に対する支援
7	発達障害に対する支援③	行動の問題に対する支援
8	質疑応答	
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。疑似体験や討論を行います。

■スクーリング　評価基準

授業への参加状況 30%＋スクーリング試験 70%（持込は自筆ノートのみ可）

試験では単なる知識の確認ではなく、スクーリングで学んだ内容を踏まえた上で、試験テーマに沿って自分の見解をどれだけ論述できるかについて問います。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10 時間）

自分が関わっている事例もしくは参考図書に載っている事例を基に行動および心理的問題について考えてきてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25 時間）

スクーリングで学習した概念に基づいて自分が関わっている事例を分析し、よりよい対応について考察してください。

レポート学習

■在宅学習 15 のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	1章　発達障害という社会現象	発達障害の概念を理解し、その種類について学ぶ。「発達障害は個性なのか」「診断の意味」について考える。 キーワード：発達障害、個性、診断発達障害、個性、診断	特別支援教育に関しては年々新しい知見が出て、それと関連する用語も変わっております。新しい用語を整理してみてください。
2	2章　発達障害の歴史①ADHD の誕生	ADHD の誕生仮説及び歴史を学ぶことで、障害と社会との関連性を理解し、支援へのヒントを得る。 キーワード：ADHD, 歴史、社会	発達障害の診断基準を定めた DSM-5 及び ICD-11 などについて学習することをお勧めします。
3	3章・4章　発達障害の歴史②③自閉スペクトラム症	自閉スペクトラム症の原因を通して、概念の変遷過程を理解し、スペクトラムの意義を考察する。 キーワード：自閉症、原因、スペクトラム	スペクトラム、グレーゾーンなどのことばを理解しましょう。
4	5章　発達障害は治りますか	生活への支障・生きづらさの観点から発達障害を治す、治るについて理解すると同時に、教育及び環境改善の意義を考察する。 キーワード：発達障害、治す、生活への支障	発達障害の治る・治すという観点から医療、教育それぞれの役割を考えてみましょう。
5	6章　発達障害は遺伝しますか	「ある程度遺伝する」の意味を正確に理解し、説明できる。 キーワード：発達障害、遺伝、遺伝子	遺伝率の正しい意味について学習しましょう。
6	7章・8章　薬物療法	発達障害の薬物療法について正しく理解し、そのメリットとデメリットについて考察することができる。 キーワード：自閉スペクトラム症、ADHD、易刺激性、薬物療法	薬物療法の実施において考慮すべき要因について考えてみましょう。
7	9章・10章　発達障害とコミュニケーション	自閉スペクトラム症を中心に「その人に向くコミュニケーションスキル」の重要性と、コミュニケーションスキルのトレニングに先立ってコミュニケーションの意欲を育むための方法について理解する。 キーワード：自閉スペクトラム症、コミュニケーションスタイル	コミュニケーション意欲を高めるための大人の役割について考えてみましょう。
8	11 章　発達障害を「カモフラージュ」する人	無理して周りと同じでいることからくるメンタルヘルスへの影響を理解し、無理にカモフラージュさせない環境作りについて学ぶ。	Column③「インクルーシブ教育」が、目指すものもお読みください。

		キーワード：自閉スペクトラム症、カモフラージュ、ソーシャルスキルトレニーグ	
9	12 章　「診断を活かす」ということ	発達障害の診断が持つ意味を理解し、診断にとらわれ過ぎないながらも、診断の利点を生かすことについて学ぶ。 キーワード：LD,読み書き、聞く、話す	診断の有無ではなく、支援の必要性という観点で障害を捉えるようにしましょう。
10	13 章　「やればできる、でも難しい」こと	診断の意義とも関連するテーマとして、年齢相当ではなく、実力相当がもつ意味を考える。 キーワード：ADHD, 年齢相当	本文の中でも事例をもとに無理のない目標を立てるための基準になる要因を考えてみましょう。
11	14 章　「褒めること」の持つ意味	３つの事例をもとに子どものタイプや特性、状況に応じたほめ方について理解する。 キーワード：自閉スペクトラム症、ほめ方	column④「構造化」をお読みください。
12	15 章　「自然な配慮」とは	事例の中で合理的配慮がうまく行った要因について考え、正当な配慮の提供の仕方、周りの理解を得る方法などについて考察する。 キーワード：合理的配慮、余計な配慮、周りの理解	発達障害のある人への合理的配慮を行うことの社会的意義について考察してみましょう。
13	16 章　公平な配慮	公平性は一律な扱いをすることとは異なるということを理解し、最適な配慮になるために必要なことについて考える。 キーワード：公平、最適な配慮、援助要請力	自ら必要な配慮を求める力を育てるために必要な教育について考えてみましょう。
14	17 章　目的の共有	保護者・本人・支援者が目的を共有することで、今行うべき課題を整理することの意義を理解する。 キーワード：やる気、目的意識、目的の共有	やる気を出せるのに効果的である方法を事例ごとに整理し、その共通点を考えてみましょう。
15	18 章　「気づき」から理解へ	異文化コミュニケーションという観点から発達障害のある人とのコミュニケーションを理解する観点を持つ。 キーワード：気づき、異文化コミュニケーション、意識のズレ	column⑤のギフテッドの子どもへの支援についてもお読みになってください。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	「A君は小学校３年生で、読み書きがとても苦手です。特に、漢字が苦手でどうしても覚えられなく、国語の時間にみんなの前で本を読むと笑われたりしないかすごく気になります。また、不注意なところがあって、テストではケアレスミスが多く、プリントやノートなどをなくすこともしばしばあります。家でもよく叱られているし、先生からは「できるはずなのにしない」と思われています」。 この事例に対して、心理的なサポートを含め、学校や家庭でどのような対応が必要であるのかを述べなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

（2018 年度履修登録者）2019 年度よりレポート課題が 2 課題に変更されました。単位未修得で 2018 年度に論述式レポートに合格している方は、1 単位めの客観式レポート課題に解答してください。

■アドバイス

【1 単位めアドバイス】

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

【2 単位めアドバイス】

事例の心理的困難について自分の考えを述べ、適切な対応について考察してください。

（注）

発達障害の定義・診断基準などはさまざまなものがありますが、「DSM」（ディーエスエム）と呼ばれるアメリカ精神医学会の「精神障害の診断と統計の手引き」が 2013 年 5 月に改訂され、DSM-5（ディーエスエム ファイヴ）として発表されました。

DSM-5 の定義では、例えば「広汎性発達障害」が「自閉スペクトラム症（障害）」に呼び換えられるなどの変更がなされています。

現在では、「自閉スペクトラム症」または「自閉症スペクトラム障害」が一般的な用語となっています。